

福井県三方五湖地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和5年度第2回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われていることが確認できたため、今後も引き続き活動を維持されたい。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 伝統漁法を継承するため、網の修復方法等を映像化し、誰もが見られる形で記録する取組は大変評価できる。一方、たたき網漁のさし網に使用する重りは製造技術が途絶え、過去のを再利用している状況のため、研究機関と協力しながら、地域に残る伝承等の知識を掘り起こして記録する等、継承の取組を進めていただきたい。
- (2) 漁業者の兼業化が進む中、かつての湖と里山の繋がりが薄れつつあり、伝統漁業に使用する柴の調達や里山環境の保全の観点で、漁業と林業の人的交流を強化すべきである。そのための足掛かりとして、明治以降の里山管理の歴史を紐解き、湖と里山の関係性について、今日の課題を踏まえて整理することが望ましい。
- (3) 担い手を確保するためには、ウナギ以外の魚種についても、加工や販売、漁業体験を通じた訪問客の受け入れ等、付加価値を与えることで経済的効果を高めていくことが重要である。
- (4) 農業遺産認定を活用した地域のこどもたちへの環境教育の取組は大変評価できる。今後は、こども向けの体験だけでなく、大人も対象とした環境教育の場として、地域全体をフィールドミュージアムとして捉え、強調していくことで、地域の魅力が増すのではないか。
- (5) 本地域の特徴的な内水面漁業は世界的にも貴重であり、地域の取組を海外に発信し交流する取組を推進されることを期待する。

(以上)